

第 章 目標と方針

1 まちづくりの目標

これからの時代の 生活・文化をつくる

成熟社会に対応した
都市生活の魅力を誰
もが十分に味わえる
都心

“世界都市さっぽろ” をつくる

国の枠組を越えネッ
トワーク社会に対応
した“世界都市さっ
ぽろ”の魅力を発揮
し続ける都心

都心のまちづくりは、「北方圏の拠点都市」、「新しい時代に対応した生活都市」（札幌市基本構想）の2つの都市像の具体化を先導する場をつくることを目指すものである。

札幌は、20世紀における都市化の進展に対応するための計画的な都市づくりにより、時々の市民の生活や産業の需要に対応することを精力的に進めてきた。今後は、これまでに構築した都市基盤を有効に活用し、多様な価値観、属性の人びとの生活の質を高めていくことがまちづくりの中心課題となり、これを都心が先導していく必要がある。

また世界的な都市間競争の中で確固たる地位を確保するため、市民生活の質を高めることについて札幌がひととき優れたまちづくりを展開すること、すなわち、まちづくり自体によって世界都市となることを目指し、これを都心で象徴的に表現していく必要がある。

このことにより集客交流の活性化、新たな産業育成、さらには独自の都市文化の創造が展望され、市民生活の質のさらなる向上へとつながっていくことが期待される。

2 目標実現に向けた方針

2.1 まちづくりの方針と基本的な取組み

1 安心と快適のまちづくり

様々な世代・世帯の人々が、都市の魅力を享受しながら安心して活動できる都市環境を確保する。

1-1 都心居住を促進・誘発する

医療・福祉・文化など、さまざまな機能と複合した居住環境の創出
多様な就業形態やライフスタイルを可能にする居住機能の確保

1-2 環境との共生を先導する

環境との共生に配慮した市街地の形成
エネルギー有効活用の促進
緑を感じる街並みの形成

1-3 回遊性・快適性を高める

歩行者空間の拡充とユニバーサルデザインの導入
来街者の活動を支える多様な情報提供システムの確立
地上・地下歩行者空間の連携の強化
人と車が共存できる交通システムの構築

2 五感にひびくまちづくり

四季折々の魅力にあふれる都市空間と、世界へ誇れる新しい札幌のライフスタイルを創造する。

2-1 季節感を演出する空間を形成・活用する

四季の魅力を生かした屋外空間の活用、イベントの開催
屋内外、地上・地下を含めた公共空間のネットワーク化

2-2 人々が誇りと愛着を持てる新しい都市文化を育む

新たな文化活動を多様に展開できる機能・施設の整備
豊かな時を過ごせる公共空間の形成
札幌の特性、魅力を表現する通り・広場の形成

3 先人の記憶が残るまちづくり

先人が札幌の都市づくりに込めた思いや遺産を継承し、札幌の個性と魅力をよりいっそう伸ばす。

3-1 場所の持つ歴史的役割を継承する

札幌の都市形成を支えた基盤や産業活動の場の再活用による新しい活動の展開
歴史的資源を活かした都市空間の形成

3-2 まちづくりへの姿勢を継承する

進取の気風に根ざしたまちづくりの提案、実行
まちづくりを創造的に先導する人材、組織の活用、支援

4 札幌の魅力が世界へとどくまちづくり

札幌の魅力を象徴する機能集積や空間形成を進め、キラリと光る札幌の個性を世界へ向けて発信する。

- 4-1 札幌の魅力と活力を端的に示す
多面的で質の高い都市文化を表現する活動、イベントの展開
札幌の個性を伝える街並み・空間の形成
- 4-2 快適な活動環境を整える
都心で活動する人の活用によるホスピタリティの向上
さまざまな媒体による情報の提供
- 4-3 世界へ向けて発信する
まちづくりの意思、方向性の明示
多様なメディアを活用した札幌の魅力の国内外へのアピール

5 市民の夢を支援するまちづくり

こころの豊かさや自己実現をめざす市民のニーズに応えるために、活動の場や機会を提供するなど、多面的に支援する。

- 5-1 多様な活動を支援・育成する
新しい文化、産業を生み出す活動のための場、機会、情報の提供
公共的空間の柔軟で多面的な活用

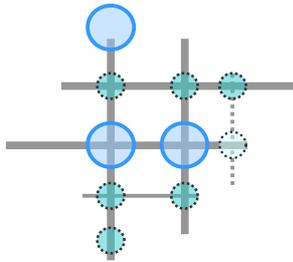
6 新たな産業、出会いが生まれるまちづくり

人材・情報の集積とネットワーク化を通じて、新たな産業活動や交流を生み出し、札幌の活力を引き出す。

- 6-1 さまざまな情報や人材の集積・交流を促す
集積・交流のための拠点の形成
市内各所での質の高いイベント、コンベンションを可能にするサービス、情報の提供
- 6-2 人材の育成・ネットワーク化を促進する
新しい技術や知識を習得するための場や機会の提供
国際的な人的ネットワークを構築するための機能の充実

2.2 都心のまちづくりを支える空間構成

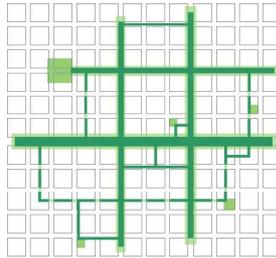
主要な結節点の特徴づけ



格子状に形成されている道路網の中で、歩行者が都心の構造を理解し方向性を確認するための手がかりとするとともに、まち歩きの快適性を確保するため、主要な通りが交差する結節点を特徴のあるものとする。

そこでは、情報提供、休憩、滞留などを可能にする公共的機能を確保するとともに、特色のある空間を形成する。

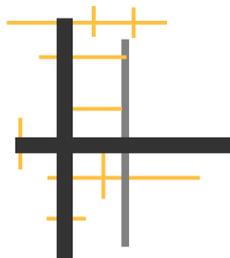
オープンスペースのネットワークの形成



回遊性を向上させ、まちの奥行きを演出するため、表通りに加えて中通や屋内外の通路を歩行者動線として配置・活用して、オープンスペースのきめ細かなネットワークを形成する。

その際、公共的機能を持つ施設や広場的空間への行きやすさの確保に配慮する。

地下空間のネットワークの形成



季節や天候、歩行者の目的、属性に応じて、移動のための空間の選択性を高めるため、地下空間のネットワークを形成する。

その際、駅前通及び大通を基軸に、また西2丁目通を補助的な軸として、これらから街区内地下空間を派生的に連携していく。